

検討の背景

○社会情勢等

人口減少・少子化の深刻化・地域コミュニティの希薄化・デジタル化、グローバル化の進展により将来の予測が困難な時代に学校・社会の複雑化・困難化した課題の解決、人生100年時代、共生社会や「こどもまんなか」社会の実現に向けた対応が必要

○読書をめぐる現状・課題

急激に変化する時代に必要とされる資質・能力を育む上で、読解力、思考力、表現力等を養う読書活動の推進は不可欠
 ・図書館数は増加、学校図書館の整備等も進む一方、整備状況には地域格差も。不読率は子供、成人ともに上昇傾向
 ・「視覚障害者等の読書環境の整備に関する法律」（読書バリアフリー法）（令和元年7月）等を踏まえた読書環境整備が必要

第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(R5～R9)

全ての子どもたちが読書活動の恩恵を受けられるよう、以下の点も考慮し、社会全体で子どもの読書活動を推進する必要がある

<基本の方針>

- 1 不読率の低減
- 2 多様な子どもたちの読書機会の確保
- 3 デジタル社会に対応した読書環境の整備
- 4 子どもの視点に立った読書活動の推進

○連携・協力

多様な子どもの読書活動推進に様々な機関、人々の連携・協力が不可欠
 学校図書館・図書館間の連携・協力体制の強化は極めて重要

○図書館、学校等における取組の促進等

ICTの急速な発展等の昨今の社会の変化、読書バリアフリー法を踏まえ、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」、「学校図書館ガイドライン」等について必要な見直しを検討

学校教育の情報化の推進に関する法律(R元)
 デジタル田園都市国家構想総合戦略(R4)

学習指導要領改訂(H29～R元) 主体的・対話的で深い学び
 中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」(R3)

第4期「教育振興基本計画」(R5～)

<総括的基本方針>

2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成
 日本社会に根差したウェルビーイングの向上

○社会教育を通じた持続的な地域コミュニティの基盤形成

図書館等は、社会教育の拠点として自らが果たす役割の明確化、地域住民の意向を運営に取り入れることによる機能強化が重要。
 この際、社会的包摂の観点からの対応が求められる

○教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

図書館等におけるデジタル基盤の強化やデジタル教育の充実



社会の変化等(デジタル社会、読書バリアフリー等の社会的包摂等)への対応をはじめ、図書館・学校図書館の運営の充実は喫緊の課題

家庭、地域、学校等の連携・協力により、社会全体で読書環境を充実（本会議の視点）

論点(案)

これからの図書館・学校図書館の運営に求められる事項について、以下の論点から検討

I. 社会変化等を踏まえた図書館・学校図書館の運営充実の在り方

1. デジタル社会への対応

- ・社会のデジタル化、GIGAスクール構想等の進展等を踏まえ、図書館・学校図書館の意義を高める効果的なデジタル活用の在り方、必要な資料（種類等）やサービス、施設・設備の在り方、これらに対応するために求められる司書教諭、学校司書、司書等の人材の在り方（役割や専門性等）

2. 多様な人々のための読書環境の整備

- ・読書バリアフリーへの対応に向けて求められる事項（読書バリアフリー法等を踏まえた対応）
 - －図書館・学校図書館の利用に係る体制の整備（アクセシブルな書籍や円滑な利用のための支援の充実等（サービス、設備等））、人材
- ・社会的包摂の視点から、障害者、外国人、高齢者等、多様な人々の読書環境の充実に向けて求められる事項

3. これからの子供の学びを支える読書環境の充実

- ・学習指導要領に基づく、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実、主体的・対話的で深い学びの実現
- ・不読率の低減や子供主体の読書の取組の推進を図るために、図書館・学校図書館に求められる資料、サービス、施設・設備、人材の在り方

II. 図書館・学校図書館の運営上の諸課題への対応

1. 関係機関等との連携・協働の促進等

- ・地域コミュニティへの寄与のため、図書館・学校図書館に求められる役割、これらに対応した資料、サービス、施設・設備、人材
- ・地域の多様な関係機関等との連携・協働（学習資源・人的資源の共有の促進等）による読書環境の充実に向けて求められる事項（図書館と関係機関等との連携上の課題とされている事項（過度な複本や新刊貸出時期、地元書店からの書籍購入、装備費負担等）に係る現状分析を含む）

2. 今後の図書館・学校図書館に求められる人材の育成等

- ・I～II-1の検討を踏まえ、必要となる組織体制、館長（校長）、司書教諭、学校司書、司書に求められる資質向上（研修等）の在り方
- ・司書教諭、学校司書、司書の配置充実に向けた課題等（処遇の在り方等）
- ・読書推進人材（絵本専門士、認定絵本土、朗読指導者、読書アドバイザー）の活用

3. その他

- ・上記を踏まえ図書館・学校図書館の評価に求められる内容等、その他留意すべき事項（著作権法改正、学校施設整備指針改訂（R4）対応等）

第4回の論点に関する現状・基本的方向性

II. 図書館・学校図書館の運営上の諸課題への対応

2. 今後の図書館・学校図書館に求められる人材の育成等

現状 資格取得者が着実に増えながらも、取得後の活躍の場の拡大が課題

絵本専門士：絵本に関する高度な知識、技能及び感性を備えた絵本の専門家

- 絵本専門士制度：絵本専門士委員会の提言を踏まえて創設された制度。平成26年度開始。
- 絵本専門士養成講座：国立青少年教育振興機構が実施。令和7年度時点で第12期。認定者数は637名（令和6年7月時点）。

JPIC読書アドバイザー：本と読書に関することに助言・提言し、読書環境の向上につとめる役割を持つ民間資格

- JPIC読書アドバイザー養成講座：平成5年より出版文化産業振興財団が実施。令和6年度時点で第31期。
- JPIC読書アドバイザークラブ：講座修了生有志による自主運営組織。平成5年設立。会員数は約600名（令和6年時点）。

読書推進人材の活躍機会の拡大に係る基本的方向性

第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(令和5年3月)

第4章 子どもの読書活動の推進方策

V 民間団体

1 民間団体の役割・取組

絵本専門士等の読書活動に関する専門的知識を有する者や地域のボランティア等、様々な人々が参画することで、多面的な支援が可能となる。

2 民間団体の取組の促進等

国は、子どもの読書活動の推進を図る民間団体やボランティアの活動を一層充実させ、情報交流や合同研修等を通じてこれら相互間のネットワークの構築を図るため、民間団体やボランティアの取組を周知するとともに、「子どもゆめ基金」をはじめとした助成や絵本専門士や認定絵本士等の人材育成等を推進する。

読書推進人材の活躍機会の拡大に係る他の方向性

「関係者から指摘された書店活性化のための課題」(経済産業省書店振興プロジェクトチーム、令和7年1月28日)

3. 書店活性化のための課題の整理

(1) 書店特有の課題

29. 文化施設、読書推進人材の活用機会が希薄

読書活動の推進に係る資格として、国立青少年教育振興機構によって「絵本専門士」や「認定絵本士」が整備されており、子供を含む読書活動推進への寄与が期待される。さらに、民間でも(公財)文字・活字文化推進機構による「朗読指導者」や、(一財)出版文化産業振興財団による「読書アドバイザー」といったものもあるが、これらの資格を取得している人材の活用機会が希薄といった課題も挙げられた。

第4回の論点と検討の視点（案）

II. 図書館・学校図書館の運営上の諸課題への対応

2. 今後の図書館・学校図書館に求められる人材の育成等

論点と検討の視点（案）

1 読書推進人材に期待される役割

- ・ 図書館・学校図書館が、読書活動に関する専門的知識を有する者からの助言を得ながら子供の読書活動を推進する環境を整備する必要性や意義、教育的な観点等から見た効果
- ・ 地域のまちづくり推進において読書推進人材に期待される役割
- ・ その他、図書館・学校図書館において読書推進人材に期待する役割

2 読書推進人材の活躍機会の拡大に向けた課題と方策等

- ・ 読書推進人材が、図書館・学校図書館等における読書活動へ参画する上での課題（例：関係者間のコミュニケーション 等）
- ・ 図書館や学校図書館が、読書推進人材を読書活動に参加させる際の課題と対応策（例：周知方法・広報、謝金等の予算確保 等）

3 人材育成強化に向けた課題、期待される取組

- ・ 読書推進人材の確保に向けた課題（例：高齢化、新規人材の応募減少 等）
- ・ 読書推進人材の専門性強化に向けた課題（例：資格取得後の継続研修 等）

4 地域における多様な読書推進人材の連携促進（ネットワーク構築）の必要性等

- ・ 読書推進人材が、子どもの読書活動の推進を図る民間団体やボランティアとの情報交流等を通じ、相互ネットワークを構築する必要性等
- ・ 図書館・学校図書館と読書推進人材との役割分担